

## 令和3年度 白川町総合計画審議会 会議録

1. 開催日時 令和3年7月27日(火) 午前10時00分 開会
2. 開催場所 白川町町民会館 大研修室
3. 出席委員  
会 長 竹内治彦君 副会長 細江茂樹君  
委 員 藤井宏之君 委 員 佐伯好典君  
委 員 服部圭子君 委 員 田口和義君  
委 員 長尾達美君 委 員 山中剛彦君  
委 員 鈴村雄二君 委 員 藤井保明君  
委 員 小栗敏弘君 委 員 福田喜美子君  
委 員 細江照男君 委 員 後藤茂巳君  
委 員 内藤敬子君 委 員 塩月祥子君
4. 欠席委員 委 員 加藤邦之君 委 員 中村希志君  
委 員 安江万美子君 委 員 浅井長可君
5. 説明のために出席した者の職氏名  
副町長 佐伯正貴君 企画課長 長尾弘巳君
6. 職務のために出席した者の職氏名  
企画係長 鈴村幸祐 企画係主査 鈴村元秀
7. 会議の経過  
企画課長 開会する旨を宣告し、あいさつした。(午前10時00分)  
企画課長 委嘱書の交付について説明した。  
副町長 あいさつした。  
(新任の審議会委員の自己紹介)  
長尾委員 あいさつした。  
藤井保明委員 あいさつした。  
(4) 会長、副会長の選出について  
企画課長 会長、副会長の互選を議題とし、選出方法について意見を求めた。  
服部委員 事務局案をお聞かせいただきたい。  
企画課長 事務局案を提案。(拍手多数)  
拍手多数により、竹内治彦委員を会長に、細江茂樹委員を副会長に決定  
することとした。  
会 長 あいさつした。  
**【協議事項】**  
(5) 白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について  
会 長 (5) 白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について事務局に

説明を求めた。

企画係長 資料により説明した。

会長 質疑を許した。

後藤委員 白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 達成状況一覧の4. 川  
であんきに子育て あんきに暮らす施策①生活支援（子育て支援・高齢  
者支援）の充実2 「高齢者」世代の満足度の目標値について、8%とし  
た理由は何か。

企画係長 一覧表の備考欄にあるとおり当該目標は地域福祉計画アンケート結果を  
基にKPIを設定しており、アンケート項目として満足度が1から5段  
階で回答を行うものになっており、目標値として設定した数値は、5段  
階評価の内最上位の非常に満足していると回答した数値の割合としてい  
ます。

後藤委員 KPI 達成状況一覧の出生数について、令和2年度は21人という結果  
でしたが、人口千人に対する出生数の割合である出生率という指標は、  
子育てに対する施策を評価する数値として検証することも考えられるの  
ではないか。

企画係長 少子化や人口減少等に関して、20歳から39歳までの女性人口の減少  
により消滅可能性都市を名指した増田レポートでは、この白川町が県  
内ワーストという結果で非常に大きな衝撃を与えました。町としては当  
然出生数の減少を食い止める子育て政策の分野について、引き続き力  
を入れて取り組んでいくこととしております。

会長 現在の人口と出生数である21人では、出生率や合計特殊出生率といっ  
た指標ではふり幅が大きく出る可能性がある。出生数の減少を食い止める  
ことと同時に、子育て世代を呼び込むという取り組みも必要である。

企画係長 お手元に配布した人口ビジョンの改訂版には、先ほど後藤委員からご質  
問のあった出生率の仮定値に基づいた人口推計も掲げておりますので参  
考にしていきたい。

6. 令和2年度実施 地方創生交付金事業について（評価・検証） 7. 令和3年度実施  
地方創生交付金事業について（説明・意見交換）

会長 6. 令和2年度実施 地方創生交付金事業について（評価・検証） 7.  
令和3年度実施 地方創生交付金事業について（説明・意見交換）につい  
て説明を求めた。

企画係長 資料により説明した

鈴木主査 資料により説明した。

会長 地方創生交付金事業のうちくらしの足から地域としごとを創る公共交通

トライアングル事業から質疑を許した。

佐伯委員 公共交通を取り巻く状況として、地域ドライバーの高齢化や病院バスとの統合、地域商店への買い物支援など様々な課題に取り組んでいくことになるが、公共交通の仕組みの中で移動販売という事業を組み込む計画はあるか。

企画係長 3年を事業期間とした地方創生の公共交通の事業評価や検証といった項目には、移動販売という計画は盛り込んでいないが、佐伯委員からご指摘いただいたニーズや課題は認識している。移動販売からは離れるが、8月から公共交通の仕組みの中で「サポート便」が新たに加わり、福祉事業者の社会福祉協議会とサンシャイン福祉振興会が事業主体となり有償運送を開始されます。今後の事業展開としては、通院や買い物の移動支援のほかにも、御用聞きや地域の世話人のような地域を見守り育てるという役割を公共交通に携わっていただくことも検討できればと考えております。

服部委員 私自身も運営会議等に出席した立場から、公共交通の計画から運営指導、佐見と黒川に組織された地域部会の取組や、長年にわたり課題としてありました病院バスとの連携など、現在までに携わっていただいている関係者皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。3点質問をしますが、以前夏休み期間に実施していた児童が50円でバスに乗車できる取組みは現在も行われているか。2点目は、福祉有償運送の仕組みについて今までは、社会福祉協議会が福祉車両の貸し出しを行っていたがどういった取組みなのか説明いただきたい。3点目は、観光面での取組みについて。以上3点を質問します。

企画係長 3点質問を頂きました。1点目は高校生以下のバス乗車については、平成30年10月以前に濃飛バスが路線バスを運行していた時は、夏休み期間の運賃は50円で行ってございました。現在ではその取組みは行っておりませんが、地域部会の活動として、小学生に公共交通の乗車体験を行う取組みをしています。今後は、各地域の状況に応じて子供向けの乗車体験などの取組が進むことを期待しています。

2点目は、8月から始まる福祉有償運送の取組について、社会福祉協議会の事務局長である福田委員もこの事業に取り組んでおられます。運賃を徴収して利用者を病院などに送り届けるサービスとして運転手による移送サービスとなっています。また社協では福祉車両の貸し出しを引き続き行っていていただいております。

3点目の観光交通について、本来であればタクシーなど民間サービスに

よって観光客等への対応を頂くところですが、当町ではタクシー業者が無く現在はおでかけしらかわの運行の中で対応しております。

服部委員 1点目の子供に対する公共交通のあり方について、現在保育園の送迎を保護者で行っている状況もある中で、子育て支援という観点から検討をお願いしたい。2点目の福祉有償運送について、福祉車両の貸し出しを社協まで借りに行く必要がある状況を改善できないか。3点目の観光交通について、現在予約が必要なおでかけしらかわの運行であるが、JR 駅を訪れる観光客の利便性が上がるような仕組みを検討いただきたく意見します。

会長 協議事項は、令和2年度と今年度の地方創生交付金事業の評価・検証が主なので意見として頂戴し、福祉有償運送や福祉車両の貸し出しについて補足がありましたら福田委員よろしく申し上げます。

福田委員 車いすのまま乗車できる福祉車両の貸し出しについては、現在社協と黒川の気楽園で貸し出しております。佐見地区の方につきましては、福祉会が福祉車両を寄贈して下佐見のせせらぎ園で貸し出しを行っています。福祉有償運送については、介護サービスである移送サービスを公共交通の利用できる方に対しても行っていたが、今後は利用者の状況に応じてサービスを選択することが出来るようになりました。また、福祉有償事業を社協とサンシャインの2者が行うことにより、各地域の利用者に対してきめ細かなサービスが行き届くことになると共に、両者が連携することで待ち時間の短縮につながり利便性の向上も図られると考えています。

会長 地方創生交付金の事業の検証・評価というところで、計画書について若干の語句の修正をされると良い。また、K P I の達成状況としても、数値を累計か新規のどちらで計上するか再考いただきたい。また、公共交通全般にわたって言えることですが、先ほどの福祉有償運送の例からも福祉政策なのか公共交通政策なのか明確に分けることが出来ないものだと思います。白川町公共交通は移動権の確保という観点から、民間事業者の廃業に係わらず官民連携して立派なシステムを構築されました。県内でも今後、過疎地だけではなく公共交通の課題はたくさん出てくると思いますので、この白川町の取組が一つの参考例となると考えております。

次に、ドローンを活用した若者定住促進プロジェクトについて質疑を許した。

服部委員 ドローンの活用について、説明頂きました有害獣の生息調査や林業への取組、子どもたちへのプログラミング授業など様々な取り組みを計画されていますが、農業では空撮でのP Rを積極的に活用していただきたい。ま

た、農業分野でドローンの薬剤散布を計画されているが、非常にデリケートな問題も心配されるため、周囲の住民に対する配慮を心掛けていただきたい。

鈴村主査 ドローンをPRに活用する提案を頂きましたが、8月に空撮大会といったイベントを予定しており、町外の方が撮影する町の風景動画が、町民の郷土に対する魅力の再認識に繋がるものと考えております。また、薬剤散布について、作業の省力化による労働者の負担軽減という観点から、今回は農協や営農組合の協力により有効性の実証を委託しております。また、ドローンの活用による若者定住促進をプロジェクトとしており、地域の若者の協力を得ながら、当然周辺住民の配慮も忘れずに進めていきたいと考えております。

服部委員 ドローンでのPR撮影については、現在ドローンの所持者や資格取得者のみの活用であることから、今後は地元農業者等との連携をお願いしたい。また薬剤散布は、操縦者の健康面の安全という観点からも慎重に考えていただきたい。

佐伯委員 最先端技術の活用ということで、白川町のような中山間地域の特徴を活かした取り組みであると考え、ドローンの推進は大変良いプロジェクトだと考えている。KPIとの関連だが、薬剤散布や林業など、ドローンの活用は省力化に伴う労働者の負担軽減という目的であることから、ドローンの導入件数としては実績がカウントされるが、次の組合の新規構成員数や移住者数に直接的につながらないと考えられるがどうか。また、ドローンをだれでも簡単に飛ばせる場所づくり。例えば高山のスキー場の取組など、これからのプロジェクトに取り入れることはできないか。

鈴村主査 KPIの設定について、ドローンの導入活用実績を集落営農組織の組合員や移住者の増加に如何に繋げるかは、直接的には難しい関連性だとは思いますが、ドローンの普及活動として当プロジェクトのほかにもJUAVACさんが独自に取り組みを行っています。例えば、地域の文房具店と連携して図書券でトイドローンが購入できる取り組みや、クオーレのキャンプ場に来場している親子や子供たちに対し、ドローンに搭載したスピーカーを通じて呼びかけを行ったり、毎週木曜日金曜日には旧チャオで町内29名ほどが登録してドローン練習会という活動を行っています。ドローンのような最先端技術を知っていただき、可能性を模索しながらりわいづくりに繋げることが大切であると考えます。

企画係長 ドローンを活用した若者定住促進プロジェクトであり、KPIを考えたところ担当課と調整をした結果このような指標を上げさせていただいた。

また、動画配信などのPRについては、3年目の事業で観光との連携を計画してるので、実施可能な部分を取り込んで進めていきたい。

佐伯委員 KPIの設定については、導入活用件数と成果の紐づけが明確になるように再考いただきたい。集落営農組織構成員の内ドローン免許取得者数であったり、農林業分野に限らず観光や災害時の活動におけるドローンの活用数など活動実績に関連した若者の定住促進の成果を測れるKPIとすべき。ドローンを活用していくためには、操縦技術の向上や知識等の継続が重要課題だと思うが、人材育成を続けていく中で、地元住民が継続してドローンを利用できる機会を作っていく必要があるのではないかと。

会長 KPIの設定での意見については、ドローンの活動実績が若者の定住促進の成果につながるように、活動指標と成果指標の関連が明確になるようKPIを再度検討いただきたい。

後藤委員 ドローンを購入するにあたり、町の補助支援制度は無いかと。

企画係長 現在町としてドローンの購入補助という制度はありません。しかし、国や県の事業については、現在いくつかの補助制度があります。

#### 【その他】

会長 その他について説明や意見がないか求めた。  
(意見なし)

細江副会長 閉会にあたりあいさつした。

会長 閉会を宣した。

(午前11時30分)